

「注目作家紹介プログラム 13 チャンネル 吉村宗浩 画家とアトリエメチエの修行場」は、11月6日に会期を終了しました。11月7日、休館日の月曜日に作品の撤去を行い、吉村さんと奥様が搬出に立ち会われました。閉幕の翌日に展覧会を振り返り、お二人にお話をお伺いしました。

Q. 今回の展覧会ではほぼ毎日、美術館のアトリエで制作されました（図1）。普段とは異なる環境となりましたが、いかがでしたか？

A. 違うとはいえ、ステレオを持ち込むことを許していただいたり、かなり日常の感じで制作できたと思います。僕にとっては音楽の存在は大きいです。普段、家で聞いている音楽をかけました。

Q. アトリエに、CDやレコードがどんどん増えていきましたね。

A. あの曲が聴きたいとか、お客さんにこれを聴かせたいと思って。もっとたくさんあるんですけど、聴くのはわりと限られています。今回の会場とアイアン・メイデンは合わないな、と感じたり。オジー・オズボーンをかけていたら、「オジー・オズボーンの悪さが絵にも出ていますよ」と言われる人がおられましたね。（笑）

Q. 画廊などで開催される展覧会と比べて、お客さんの反応はいかがでしたか？

A. すごく違ってましたね。ギャラリーでの展覧会より、お客さんの反応が2倍くらい強く感じました。絵を見てどんな風に感じるか人それぞれだと思いますが、その感じ方が強いみたいです。長い時間をかけて見る方や、2回3回と来てくださる人が多かったですね。作品点数も多く、会場の天井が高くて、照明のおかげできれいに見えたのでしょうか。子供も来てくれて、二人の小さい女の子の反応がすごくよかったです。ある絵にすごく反応していて（図2）。子供にウケる絵を描きたいなと思いました。子供が反応する絵って強くて、なかなか難しいと思います。

Q. これからの活動や制作への影響もあるでしょうか？

A. 展覧会が続いて、追い立てられているというのはありますが、最近、自分の絵の方向がこの道でいいんだと思えるようになって気持ちが楽になりました。もちろん、技法やタッチを変えたりすることはありますが、進む方向はこれだということが、お客さんの反応を見てわかってきました。あれだけたくさんの作品を一度に展示することで、自分の頭の中で整理されてきたんだと思います。

作家出勤予定 (2022年10月6日時点) ※特に記載のない日時には作家が在館する予定です						
日	月	火	水	木	金	土
9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1
10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8
10/9	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15
		休館日	午後不在	午前不在		午前不在
10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22
	休館日	14~16時不在	16:30 取替			
10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29
	休館日	日本シリーズ 最終試合の 午3時に帰ります	14~16時不在	10~12時不在 13時~15時不在 16時~18時不在		
10/30	10/31	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5
	休館日	16時~ youtube				午前不在
11/6	11/7	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12

（図1）アトリエに掲示した吉村氏出勤日（ほぼ毎日）



（図2）子供に人気《石を投げる男》（中段右端）

Q. 毎日、ご自宅から美術館のアトリエまで出勤していただきました。ご家族にとっても、ずっと家におられる吉村さんがご不在なのは珍しいことですかね。

A (吉村夫人) . 家の犬が寂しそうでした。忙しそうだから、うちのおばあさんたちも、あまり話しかけないように気を遣っていたようです。でも、展覧会のために文章を書いてもらったことで、自分にも、家族にとっても、いつも身の回りにある絵についての理解が深まりました。

Q. 今回の展覧会で驚いたのは、スタッフやお客さんの反応でした。学芸員以外の職員やスタッフも何度も会場に足を運んだりしていました。作品とともに、吉村さんのお人柄によるものだと思います。こんなにお客さんがリラックスして嬉しそうにされている展覧会は初めてでした。

A. 絵を見た方の感想を知りたいという気持ちが強くあります。長い間見ている方もおられて、その方にはこちらから話しかけてみたりしました。みんな僕と同じような感想を持ってくれるようです。それぞれの言葉で僕に伝えてくれました。たとえば、ゴッホの作品は、色々な人が好きになりますよね。心の素直さが絵に現れていて、誰からも愛されるような。僕はあの道を目指したいです。ゴッホの人間としての純粹さ、そのようなものが目標としてあります。美術に限らず、きれいなものやあまりにも正しいものは批判されたり、偽善者として扱われることがあります。でも、僕はそうありたい、きれいなものでありたいと思っています。

Q. 毎日、ご自宅から美術館まで出勤されて、大変だったのではないのでしょうか？

A. 疲れたけど、面白かったです。何十年ぶりに定期を買いましたよ。時間は短くなりましたが、集中して描くことができました。アトリエに建てた壁がよかったのか、集中できました。せっかく持ってきたソファでゆっくり休憩する時間がなかったです。

Q. 機会があれば、また美術館で制作していただけますか？

A. 恒例行事として、またよろしく申し上げます。冗談です！（笑）

インタビュー：小林公、橋本こずえ

編集：橋本こずえ



(図3) 作品撤去後の画家



(図4) 学芸員にサインを書いてくれる吉村さん



(図5) 作品撤去後の壁と吉村氏と小林学芸員